



企業の業況悪化 金融機関担当

化の背景と 当者の動き方

小橋一輝
OREZ.Financial Consulting

インフレ・賃上げによる見えざる

財務の圧迫



社会的な物価高・人手不足

価格転嫁できない企業は
利益を削って耐え忍ぶ

苦境を隠すために
決算書上の利益を操作

売上高は増加しているのに
実質的なキャッシュフローは
マイナスの「多忙貧乏」に

ゼロゼロ融資・借換保証が生んだ

粉飾の温床



コロナ禍におけるゼロゼロ融資

借換保証制度やリスクによる
延命措置

生き残りの最終手段「粉飾」

一度粉飾に手を染めると
雪だるま式に債務が膨れ上がり
修復不可能に…

物価高騰により企業の
収益構造も変化

もう一つの要因は、急速な
インフレと人手不足によるコ
スト構造の激変だ。
原材料費やエネルギー価格
の高騰に加え、2025年か

ードルも低かったが、返済開
始に伴う借換段階では、審査
は平時の厳格さに戻ってい
る。債務超過や赤字のケー
スでは借換審査に通らず、結
果として倒産してしまうケー
スも増えてきている。
追い詰められた経営者は生
き残るための最終手段とし
て、架空売上の計上や在庫の
水増しによって、見かけ上の
黒字を作り出す誘惑に駆られ
てしまうことが多々ある。一
度粉飾に手を染めてしまった
企業は、債務が雪だるま式に
膨れ上がり、実態と決算書の
乖離は修復不可能なレベルま
で拡大していく。

コロナ禍という未曾有の
危機から数年が経過し
たいま、地域経済は表面上の
落ち着きを取り戻したように
見える。しかし、金融機関の
現場では静かだが深刻な地殻
変動が起きている。
かつて企業の延命措置とし
て機能したゼロゼロ融資（実
質無利子・無担保融資）の返
済がピークを迎えているの
だ。企業は借換保証制度など
を活用して急場をしのいでき
たが、その過程で隠しきれな
い業況悪化のシグナルが点滅
し始めているところもある。
地域経済の足元では、過去
数年間の支援策の副作用と、
劇的に変化した経済環境が複
雑に絡み合い、水面下での業
況悪化を招いている。最大の
要因は過剰債務の先送りと、
新たな資金調達のために行わ
れる「粉飾」である。
コロナ禍のゼロゼロ融資は
緊急性が高く比較的審査のハ